

事務事業評価

令和 5 年度

		担当課		しまばら観光課				
基本事項	事務事業名	島原城築城400年武将隊PR事業					整理番号	1704
	根拠法令等	なし					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	目標	基本目標3 賑わいと活力を興すまちづくり	予算科目	7 款	1 項	3 目	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規
		施策	施策3-4 訪れてみたい、魅力のあるまち	事業区分	助成・育成			
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	島原城を訪れる観光客の増加やおもてなしを行うため、島原藩七万石の成り立ちや歴代藩主等の登場を含め、往時の城下町の風情を醸し出すことにより、施設への集客を図っている。					計画期間	始期 平成 26 年度から 終期 令和 年度まで
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	島原城は島原市の観光の核となる施設であり、令和6年に築城400年を迎える。城下町・島原は江戸時代、松倉重政公が島原城を築城した時から始まり城下町として繁栄する度に、島原の乱や島原大変をはじめとする幾多の繁栄や壊滅、そして復興を繰り返しながら変革を迎えてきた。そのようなことから島原藩七万石の成り立ちを当時の歴代藩主等の登場を含めながら史実に基づき、当時を彷彿とさせる歴史を演出し、非日常を通じて、観光客の満足感・充実感を高め、観光の活性化を図るとともに、築城400年のPRを武将隊で行うことで観光客誘致を図る。						
	目的達成のための 具体的手段・方法	(株)島原観光ビューローへの業務委託により、島原城七万石武将隊を配置し、観光客への演舞披露やおもてなし等を行っている。 ○演舞披露 ○新規コンテンツの開発・実施、築城400年記念グッズ等の開発 ○武将体験・情報発信・PR活動						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	3 年度	4 年度	5 年度	
		①島原城入館者数(暦年)	目標	人	-	-	105,000	
			実績	人	64,041	67,338		
達成率			%			0.0		
②島原城入場者数(暦年)		目標	人	-	-	172,000		
		実績	人	109,077	137,061			
	達成率	%			0.0			
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①市内イベント等への参加(PR,情報発信)	目標	回	-	-	15		
		実績	回	15	11			
	②市外イベント等への参加(PR,情報発信)	目標	回	-	-	5		
		実績	回	2	0			
事業費等の推移	年度		31 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		15,139	15,000	15,000	15,000	16,000	18,000
	財源内訳	国 県 支 出 金	7,500	7,500	7,500	7,500	8,000	9,000
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源	7,639	7,500	7,500	7,500	8,000	9,000
	②従事職員給与費 b1×b2		452	454	449	440	445	445
	従事職員数(人) b1		0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
	職員平均人件費 b2		7,530	7,563	7,482	7,331	7,418	7,418
事業費合計 ① + ②		15,591	15,454	15,449	15,440	16,445	18,445	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 「島原城七方石物語事業」の継続事業として、令和3年度から「島原城築城400年武将隊PR事業」として実施。継続の要望もあり、観光客等からも好評を得ている。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 島原城を舞台にした事業であるため、島原城の指定管理者でもある(株)島原観光ビューローに委託して実施。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 島原城築城400年事業のメインとなる島原城を舞台としたPR事業であり、時代背景、史実に基づいたキャンピングができています。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 島原城における演舞披露だけでなく、市内外のイベント参加や出演依頼、新規コンテンツの開発、築城記念グッズの販売、SNSを活用した情報発信や魅力発信を行っている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 演舞披露による島原の魅力の発信はもとより、歴代藩主の武将印の作成、企画動画の配信、SNSを活用した情報発信、全国武将隊や戦国・お城マニアとの情報交換等を行うなど、新たな事業展開へ取り組んでいる。	A
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 コロナ禍において、登壇者、入場者を含め観光客の激減により厳しい状況が続いているが、コロナ禍前の水準に近づき、一定の効果は上がっている。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 人件費が事業費の8割近くを占めているが、武将隊を組むには一定数の人員を確保する必要がある。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある (株)島原観光ビューローに委託している事業であるため、今後、状況に応じて協議・検討を行う。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 本事業による集客は、島原城の収益につながることから今後、(株)島原観光ビューローの自主財源による運用(事業実施)を検討すべきと思われる。	B
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A

判定評価平均 (3点満点)

A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算

2.80

◎ 総合自己評価 (所管部署)		判断理由
評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 事業内容の改善や新たなコンテンツの開発、時代に応じた情報発信など、コロナ禍前の水準に戻すべく検証・検討等を行う。	コロナ禍において、市内の観光客及び宿泊客が大幅に減少するなど、観光産業に甚大な影響を及ぼしている。この落ち込んだ市内経済や観光産業の需要回復を行うには、城下町島原のシンボルである「島原城」を中心とした観光誘客の拡大を図ることが重要であり、また、令和6年に迎える築城400年記念事業や、令和7年以降の本市の観光の活性化を図るうえで非常に重要な事業であり、本市の観光入込客数や宿泊客数の増加並びに観光消費額の増加につながるから見直しの必要性はない。
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。		

【2次評価】

総合判定	A 継続実施 (特段の見直しは行わない)
備考	観光客の満足度の向上につながっている。特定財源が充当されているもの多額の市費が発生していることから、島原城築城400年を迎える令和6年以降も継続して観光客が再度訪問してもらえるよう今後も事業内容の改良をお願いしたい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	2,000 (千円)